

町田市戦没者遺族会だより

発行町田市戦没者遺族会
 会長 久保田 素史
 ☎ 042-795-4176
 編集 編集委員会

戦後70年にあたり

町田市地域福祉部長 須崎 信孝

今年7月、厚生労働省が日本人の平均寿命を発表しました。それによると、女性が86.83歳で3年連続世界一、男性は80.5歳で世界第3位とのことでした。まさに、人生90年時代を迎えようとするなかで、長寿社会ならでの、老老介護や社会的孤立等、「人の命」への対応の難しさが浮き彫りになっています。

又、十代の若者が集団で短絡的な行動により起こす事件も多発し、中には「人を殺してみたかった。誰でも良かった。」との供述も耳にします。

戦争により生きることが自分の意志ではどうにもならなかった時代から、70年間という時の流れの中で、戦後の動乱期を抜け経済成長の結果、今の平和が当たり前であり、命の尊さ、人への感謝が軽んじられ、自分の思い通りに行かないと、我慢が出来ない人が多くなっているように思えてなりません。

このことは、日本のみならず、世界中の国々から多くの若者たちが、独りよがりの判断で「イスラム国」に向き、戦闘に参加している。そして、国に残る親、兄弟、姉妹が嘆き悲しみ、無事家に帰ることを願っている事実があります。

これから日本では、戦争を経験された方の数が減り、直接話を聞く機会が更に少なくなっていくと思います。しかし毎年8月を迎えると、多くのマスメディアが戦争の真実を伝えています。本気で理解するつもりで目を向けるのであれば、それらの映像や語られている内容からでも、戦争の悲惨さ、愚かさ等を充分学ぶ事が出来るはずです。

私は、今後、唯一原爆被爆国として戦争の記録や記憶を風化させることなく、しっかり後世に伝えることで、「戦争」について自分の考えを明確にもち、人として正しい判断が出来る若者が増えてくれたらと思っています。

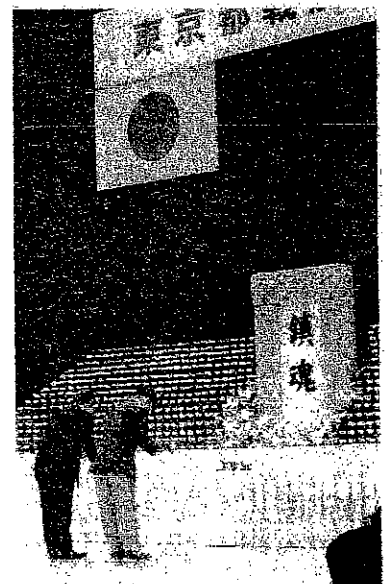
最後に、戦争で亡くなられた方々のご冥福と、町田市戦没者遺族会の皆様のご多幸とご健勝を心から祈念申し上げます。

全国・東京都戦没者追悼式 追悼の言葉

終戦から70年の8月15日(土)11時45分より、東京都戦没者追悼式が文京シビックホール(文京区春日)で開催され、750人列席し、戦没者の英霊への尊敬の念と、平和への誓いを祈念しました。

戦没者遺族代表として、町田市在住の自修館中等教育学校3年の細野雄一さん(15歳)が、戦争で兄を亡くした祖母から戦時中の話を聞き「悲しい歴史を繰り返さない為に、犠牲になった人々が教えてくれた事を、道しるべに僕たちも頑張っていくつもりです。改めて、沢山の事を学び、話をしてくれた祖母たちに感謝し、戦争で犠牲になられた方々が、安らかに眠りについてくれることを祈ります」と追悼の言葉を述べました。

同日、武道館(千代田区)にて、5327人の参列者で、全国戦没者追悼式を天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ挙行されました。式典では「さきの大戦に対する深い反省」など追悼のお言葉を述べられました。



献花する遺族代表細野さん

(文京シビックホール)

新会長就任あいさつ



町田市戦没者遺族会 会長 久保田 素史

この度、先の代議員総代会において町田市戦没者遺族会の会長にご推薦をいただきました久保田素史でございます。前会長豊島さんのこれまでのご努力やご功績に対し、深く感謝申し上げます。

このような大役をお受けするような者ではございませんが、前会長の方針を受け継いで、より一層緊張感をもち努力をする所存でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。私ごとになりますが、戦争を知らない世代で、まして、戦没者の遺児でもありません。しかし、伯父久保田高弘が、久保田家の長男として生まれ、支那事変並びに満州国境警備に従軍し、一度除隊になり、大東亜戦争の起こる昭和16年7月に再び召集され、フィリピンカミング島の洋上において29歳で戦死してしまい、私の父が二男でしたので、当然久保田家を継ぎ、私が生まれました。伯父のおかげで今日の私があるのだと思い日々感謝しております。

さて、本年は大戦後70年の節目です。平和な日々を迎えられるのも、大戦において「かけがえ」の無い尊い一命を捧げられた戦没者の皆様の礎の上のあることを、そして尚、多くのご遺骨が故郷への帰還を果たされていません。このような状況とご遺族の高齢化が進み、戦争を知らない世代へと世代交代が進み、遺族会会員も大きく減少し、財政的にも今後の組織運営が大変難しく懸念されるところで、英霊顕彰と恒久平和を念じている組織をなくすことは出来ませんので皆様と共に最善の努力と互いの結束を図り、より推進するために、ご指導、ご協力をお願いいたしましてご挨拶いたします。

会長退任に想う

町田市戦没者遺族会 前会長 豊島 茂



町田市戦没者遺族会会長在任2年という短い期間ではありましたが、会員の皆様のご理解とご協力をいただき、楽しく過ごさせていただき又、遺族会会長という貴重な経験をさせていただき、これもひとえに、会員及び市担当職員の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。初めて、町田市戦没者追悼式、全国、東京都戦没者追悼式及び千鳥ヶ淵戦没者遺骨の出迎え等に参列した時の感動は、今も脳裏に鮮明に残っており忘れることはありません。とりわけ、三橋国民先生をお迎えした「ミニコンサート・鎮魂の集い」、生涯学習センターでの「平和祈念展」と生涯思い出になる活動でした。これからも、一会員として微力ではありますが、遺族会活動に協力させていただきます。ありがとうございました。

平成27年度・28年度町田市戦没者遺族会 役員紹介

会長	久保田 素史 (町田)	理事	片桐 仁子 (町田)
副会長	石川 洋一郎 (鶴川)	理事	島野 武敬 (町田)
副会長	石川 公雄 (忠生)	理事	西尾 順子 (鶴川)
副会長	松本 正 (塚)	理事	長谷野美智子 (鶴川)
副会長会計内田	絢子 (町田)	理事	佐藤 清香 (忠生)
書記	柴田 一男 (塚)	理事	川井 康正 (忠生)
監査	横山 和明 (鶴川)	理事	平澤 幸恵 (忠生)
監査	浅沼 敬道 (忠生)	理事	高橋 美恵子 (塚)
相談役	吉野 光章 (塚)・豊島 茂 (町田)		



総代会出席の評議員

町田市終戦70年 平和祈念事業(生涯学習センター) 戦時資料展示を終えて

町田市まちだ市民大学HATS担当 史学博士 上田 誠二

8月1日(土)から9日(日)、町田市生涯学習センターの平和祈念事業として戦時資料展示が実施され、私はその担当者として遺品・資料の配置を担い、ギャラリートークを毎日行いました。

今年の平和祈念事業は終戦70年の節目ということで、特に小中学生向けの平和学習に寄与する目的の下、子供向けギャラリートークを午前中に設定し、児童雑誌、教科書、紙芝居などを紹介しながら戦時中の子どもたちの暮らしについて、多くの小中学生にお話しました。その際、今の子供たちに戦争の理不尽さを伝えるうえでとても効果的であったのが、町田市戦没者遺族会の会員の皆様からご出展いただきました写真や手紙、日記等の遺品でした。自分と同じ地域に暮らしていた、ごくごく普通のお父さんやお兄さんが出征し、家族への並々ならぬ思いを胸に戦死なされたという事実に、多くの子どもたちが感銘を覚えておりました。ご遺族の方が大切に保存されてきた出征直前の写真に写し出されている父や兄の表情からは、幼子や父母、弟妹を残して戦地に向かう複雑な心境が如実に示されており、見るものの心に戦争の理不尽さを強く印象づけたと思います。又、午後に実施した大人向けのギャラリートークでも、遺族会の方々が出展された遺品の数々多くの市民の皆さまに少なからぬ感動を与えたといえます。軍隊手帳にさりげなく記されたふるりの思い、南方に出征の際に死を覚悟し「無我」の境地を簡明に綴った父宛の遺言書、出征直前に身重の妻に残した「後事託要領」など、どれをとっても、70年前の戦争が人々の人生を大きく変えてしまった事が伝わってきます。



ここで一例をあげさせていただきます、身重の妻に「後事託要領」を残した飯田義雄さんの足跡と彼の思いです。当時、飯田さんは忠生村に在住し、町田郵便局の集配員の仕事をしていたのですが、昭和19年9月26日に召集され、10月7日「補充兵歩兵」として入隊、そして37歳の時、満州の陸軍病院で亡くなっています。その飯田さんが妻に残した「後事託要領」には、自分の出征後も、子どもたちの教育に気を配って欲しいこと、その為に貯金を続けて欲しいことなど、家族への思いが素直に記されています。妻のセイさんに対して、「将夫、博隆、学校へ上ツタラ良ク勉強サセル様、良ク自分ノ事ハ自分デヤルト云フ精神ヲ養フテクレ」と頼んでいます。更に飯田さんは身重のセイさんを、「才産ノ時ハスグニ産婆ニ掛リ成可ク11日間ハ寝テ居ル様手配シテクレ」と、気遣い子どもが生まれたら「名前ハ 男子 恭雄 女子 恭子」にして欲しいと記しています。

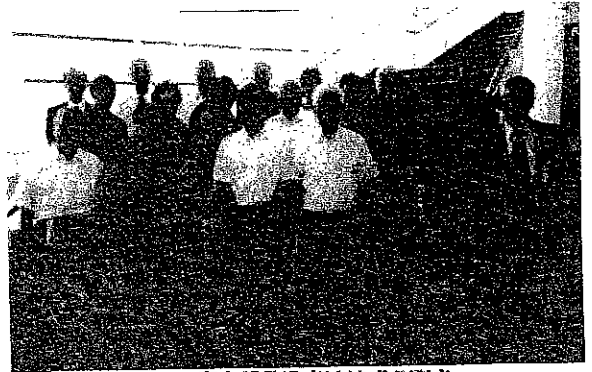
私がこの「後事託要領」を読んだ際に何より感じたのは、家族を思う父の優しさと強さです。地域の人々に信頼されていた郵便局集配員の飯田さんらしい几帳面さが文面にはにじみ出ておりますが、行間からは、戦地からの生還を信じながらも現実的にはそれが無理であることを心のどこかで覚悟しているかのような潔さが切々と伝わってきました。

こうした個人史ないし家族史が平和祈念事業の戦時資料展示に加わる意義はとても大きいといえます。展示では町田市域における戦争がどのように進行し、終結したのかを時系列で追っていきませんが、そうしたいわば大きな歴史に、ごくごく普通の父や兄その家族の小さな歴史ともいべきライフヒストリーが加わることで、戦争の理不尽さや平和の尊さが、よりリアルに市民の皆さまに伝わったのではないかと考えております。

来年度以降も、市民の皆様と共に平和について考えていけたら嬉しい限りです。

平成27年度前期行事報告

- 4月10日(金) 八王子戦没者・殉難者追悼式
- 4月11日(土) 靖国神社観桜会
- 5月20日(水) 第36回総代会 市役所会議室
- 7月15日(水) 都連拝礼式
- 7月22日(水) 千鳥ヶ淵墓苑遺骨引き渡し式
- 7月29日(水) 千鳥ヶ淵墓苑遺骨引き渡し式
- 8月1日~9日 平和祈念展 生涯学習センター
- 8月15日(土) 全国・東京都戦没者追悼式



東京都戦没者追悼式参列者

平成27年度後期行事予定

- 10月15日(木) 都連秋季慰霊追悼式
- 10月21日(水) 町田市戦没者追悼式
- 11月24日~25日 激励の集い 屋神温泉
- 12月15日(火) 都連拝礼式
- 1月 都連拝礼式・都連新年会
- 3月 都連春季慰霊追悼式

※特別弔慰金 該当者の方は福祉総務課へ申請をして下さい。

詳細は☎724-2781へ

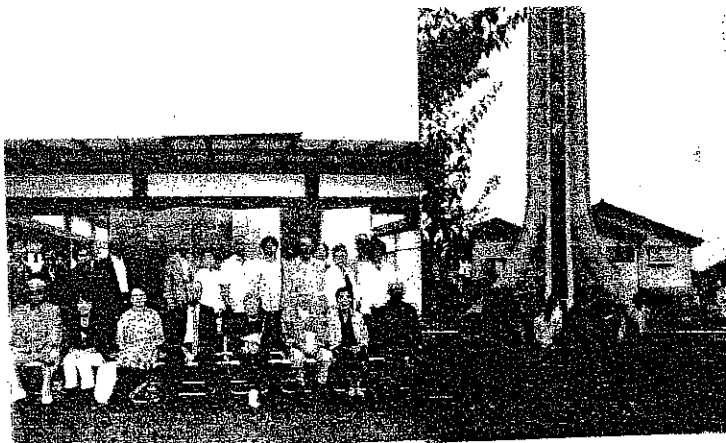
※町田市戦没者合同慰霊塔の改修工事のお知らせ

平成27年8月中旬より平成28年2月末までの予定です

《支部たより》

町田支部は5月28日(木)町田市戦没者合同慰霊塔に会員15名で献花参拝をしてきました。清掃活動には日頃参加をしていますが参拝は初めてで参加者は感激を胸に秘め帰路につき、揃って会食後解散しました。

又7月6日(月)には総勢22名でバスに乗り靖国神社の昇殿参拝と銀座での昼食そして隅田川クルージング・浅草散策を両模様の中、楽しい一日を過ごし、良い研修となりました。



靖国神社昇殿参拝を終えて

合同慰霊塔参拝記念

編集後記

正午の時報で黙とうの日、終戦70年を迎えました。伝えたいことの一部の掲載です。ご多用中にもかかわらず、皆様方に多くの草稿をいただきました。有難うございました。厚くお礼申し上げます。

ご一読いただきご意見、ご感想をお寄せ頂けましたら幸いです。

平成27年(2015)8月25日(火曜日)

能ヶ谷神社慰霊塔で

地元戦歿者の慰霊祭を斎行



慰霊塔の前で式後記念撮影

国のため、愛する家族のために命を捧げられた尊い犠牲によるものであることに思いを致し、国家、国民は戦歿者に対し等しく尊崇と感謝の誠を捧げることが忘れてはなりません。

一秀氏、能ヶ谷神社総代長石川洋一郎氏が献花。撤饗、斎主一拝で開式し、池田宮司の「英霊達の御霊が報われる世の平和を祈りつつ献杯」の発声で、神酒を捧戴した。

なお、当日は能ヶ谷神社社殿において、日清戦争、日露戦争、大東亜戦争に出征した地元若者達の奉納額と写真が展示された。また、式典参列者には、『鶴川村誌』の抜粋「戦争と村の人々」(昭和33年1月15日)が配付された。それによると、鶴川村だけで、支那事変、大東亜戦争の従軍者は七二二名に上り、内二二〇名が戦歿された。

八月八日午前十一時から、能ヶ谷神社慰霊塔の前において、能ヶ谷戦歿者慰霊祭が斎行された。斎主は、能ヶ谷神社宮司池田豊彦氏。司会者により開式。修祓、国歌君が代斉唱後、斎主一拝、献饗。黙禱の後、斎主池田宮司による祭詞が奏上され、遺族代表の夏目功氏が「遺族の言葉」を述べた。夏目氏の父君正治氏は、昭和20年3月、大阪海軍病院で戦病死されている。「戦後七十年が経ちました。私達が平和で豊かな生活を享受できるのは、

昭和六年の満州事変勃発から昭和二十年の大東亜戦争終結までの十五年間、この鎮守の森、能ヶ谷神社の石段を上がり、武運長久を祈り出征された能ヶ谷の青年達は99名でした。その内32名の方は若くしてかけがえのない人生を消し去られ、この地を再び踏むことが出来ませんでした。遠く南の島で、中国大陸、朝鮮半島で、そして太平洋の海で、数多の御柱が未だ日本国に帰還をされておられません。戦地に赴かれ人生の思い半ば阻まれ若くして散った青年達に心

町田市

能ヶ谷

戦歿者慰霊祭



平成27年8月8日

趣 意

戦後 70 年がたちました。

私達が平和で豊かな生活を享受出来るのは、国の為、愛する家族の為に命を捧げられた尊い犠牲によるものであることに思いをいたし、国家、国民は戦歿者に対して等しく尊崇と感謝の誠を捧げることを忘れてはなりません。

昭和 6 年の満州事変勃発から昭和 20 年の大東亜戦争終結までの 14 年間、この鎮守の杜能ヶ谷神社の石段を上り、武運長久を願い出征された能ヶ谷の青年達は 99 名でした。そのうち 32 名の方々は若くして掛け替えのない人生を消し去られ、この地を再び踏むことは出来ませんでした。遠く南の島々で、中国大陸で、朝鮮半島で、そして太平洋の海で、あまたの御柱が、いまだ、日本国に帰還しておりません。

戦地に赴かれ、人生の思い半ば若くして散った青年達に心から鎮魂の気持ちを捧げるものであります。

英霊の皆様、安らかにお眠り下さい。

平和という重みを心に深く受けとめて慰霊祭を執り行わせていただきます。

平成 27 年 8 月 8 日

能ヶ谷戦没者遺族・参列者一同

式 次 第

一	開	式	の	辞
一	修			祓
一	国	歌	斉	唱
一	斎	主	一	拝
一	献			饌
一	黙			禱
一	祭	詞	奏	上
一	遺	族	の	ことば
一	献			花
一	撤			饌
一	斎	主	一	拝
一	閉	式	の	辞
一	神	酒	拝	戴

式終了後直会



碑文

昭和六年九月十六日滿洲事変勃発
支那事変として大東亞戦争昭和二十
年八月十五日戦争終結までの十四年
入宮、出征された九十九名のうち
戦歿三十二名復員後物故者十二名
あなた方は若くして尊い生命を犠牲
にし祖國日本の礎石となられた
ことは永く歴史に銘記される
事でしょう。

本日あなた方が生を受けそして
武運長久を祈った鎮守能ヶ谷神社
の一隅に慰霊碑を建立し、遺稿を穂ひ
再び悲慘な戦争のない平和を明るい
文化國家日本であることを祈願し
子々孫々に伝承いたします。

ご冥福を深くお祈りいたします。

昭和六十年八月十五日
支那事変大東亞戦争戦歿者物故者
慰霊碑建立発起人一同

文 碑 慰 靈 碑

能ヶ谷戦歿者慰霊祭発起人有志一同